

# 電算機は生かすも殺すも人次第

すでに「さんようこくさく」51年10月号、52年2月号で紹介されたように、コンピューターが新しく性能の良いものになりました。しかし人工頭脳と呼ばれるコンピューターも、巨大な白痴に過ぎず、自分自身では何一つ仕事をする事ができません。

コンピューターに生命を与え、企業に貢献させるためには、次の3つのことを人間がしなければなりません。

(1)コンピューターに何をさせるかを決め、仕事の仕組を整理し、ルール化する。これはコンピューターの有効利用の基本であって、コンピューターの利用部門に計数部が協力して慎重に検討立案されます。

(2)計算の手順やルールを教える。(コンピューターは使う人、教える人の能力以上のことは何一つできない。)

(3)正しいデータを入れる。(誤ったデータを入れても、そのまま知らん顔で計算し、結果を印刷する。)

(2)、(3)が計数部員の役割です。これらの仕事は完ぺきでなければならず、どんな小さな誤りも許されません。そのために毎日毎日神経をすりへらしている集団、これが計数部です。

以上2つのほかに、従来コンピューターのデータをテレタイプで伝送していたため、テレタイプの仕事も受け持っています。(計数部)



「コンピューターは、思いつきでは動かない」

高山 青木 佐藤(陽)

△テレタイプ室▽



村上

佐藤(厚)

鹿島

縄田

三ツ井

中井

竹内

河内

山本

河井

小野

桶川

若林

中谷

三上

半田

芳賀

鈴木(泰)

実方

鈴木(俊)

